熊本日日新聞
kumanichi.com
夕刊
発行所 熊本日日新聞社
〒860−8506
熊本市中央区世安町172
☎代 表(096) 361−3111
©熊本日日新聞社 2015年

2015年(平成27年)
4/23(木)
Thursday

きょうの発言

高谷 和生
くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク事務局長

満開の桜のもとで

国立ハンセン病療養所・菊池恵楓園（合志市）にある宮崎記念公園の満開の桜のもとで、恒例となっている国賠訴訟原告団主催の花見が、今年も多くの参加者を得て開かれました。

恵楓園ボランティアガイドになって6年目の私も、この花見を楽しみにしている一人です。ただ今年は、入所者自治会の稲葉正彦氏や、県の無らい県運動検証委員を務められた小松裕氏の逝去で、献杯に始まる静かな花見となりました。

この公園の場所は、戦時中は特攻機の中継基地だった陸軍黒石原飛行場で、平和となった戦後は同園に返却され、今は合志市民が訪れる桜の名所となっています。

昨年8月、恵楓園の空襲資料調査で多摩全生園（東京都東村山市）を訪れました。入所者の逃走防止用に植えられたヒイラギの高い生け垣や、患者地帯と区切った空堀、歴史的建物である少年少女舎建物や奉安殿が今も残されていました。

さらに園内には男子独身寮「山吹寮」が復元され、隣接する国立ハンセン病資料館の展示資料とともに、現地で差別の現実を実体験できます。

一方、恵楓園には療養所と社会とを隔てたコンクリートの「あつい壁」や、見学者の多くが心痛める監禁室も保存され、慰霊の場である新旧納骨堂などもあります。

恵楓園が桜の名所としてだけでなく、いつも市民が自由に訪れて、ハンセン病問題を学ぶ人権学習の場であってほしいと望んでいます。

2015.4.23